

## 海外安全対策情報（平成28年4月～6月）

### 1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件も発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等においては十分に注意が必要です。

### 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2016年上半期（2016年8月15日時点での最新情報）のベラルーシにおける犯罪総数は47,467件で、昨年同時期と比較し1.8%減少しています。未成年者による麻薬犯罪が増加しているとの報道もありますので注意してください。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗	18,398件（前年比6.6%減）
（うち住宅対象侵入窃盗）	5,054件（同7.7%減）
イ 公然窃盗	951件（同16.1%減）
ウ 恐喝	62件（同26.2%減）
エ 詐欺	2,558件（同35.1%増）
オ フーリガン犯罪	1,885件（同3.3%増）
カ 殺人及び殺人未遂	213件（同1.4%増）
キ 重傷傷害	394件（同6.9%減）
ク 強盗	135件（同17.2%減）
ケ 強姦及び強姦未遂	61件（同12.9%減）

(2) 邦人被害事案は報告されていません。

(3) 2016年4月～6月における主な被害事案は以下のとおりです(当地の報道から作成)。

ア 4月21日、ミンスク州モロデチノ地区の「ベラルーシバンク」オフィスにて強盗事件が発生した。犯人は、銀行内に利用者がいない隙を狙い、拳銃のようなもので銀行員を脅迫し、少なくとも6千万ベラルーシ・ルーブル（約3000米ドル）を奪い、逃走した。

イ 4月22日、ブレスト州の女学生が、8000ユーロの窃盗の罪で勾留された。事件概要は次のとおり。被害者の外国人男性は、事件前夜に知人とバーで酒を飲んでいて、この女学生及び同人の友人と知り合い、その後は被害者の自宅に場所を移して飲酒を続けた。被害者は翌日の昼頃に寝入り、晩に目が覚めた際に衣服のポケットから現金8000ユーロがなくなっていることに気がついた。この女学生は勾留され、犯行を認めている。

ウ 5月19日、ミンスク市民とロシア国籍者2人の3人組が誘拐の容疑で起訴された。被疑者らは、被害者の後をつけ、屋外で一人になるタイミングを見計らい、手錠で拘束し、レンタカーで誘拐した。被疑者らは被害者をあらかじめ借りていた部屋に連れ込み、10万ドル以上の額を要求したが、警察が同人らを勾留したため、犯行は未遂に終わった。

エ 5月23日、ミンスク市オクチャーブリスキー地区の高等学校にて、生徒が教師を暴行する事件が起こった。事件は執務室で発生し、当時は被害者と加害者以外の人物はいなかった。被害者は鋭利なもので何度か首周辺を刺され、重傷を負った。被疑者は殺人未遂で起訴された。

3 テロ・爆弾事件の発生状況  
なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況  
なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題  
なし。

※上述の事案は全体の一部の情報です。定期的に報道を確認する等し、自身の安全確保に努めてください。